

2025 部落問題資料研究会第3期連続学習会

“知ってまっか大阪の部落史”

第3回学習会のご案内

大阪では1995年4月から編纂委員会が組織され、14年間という歳月をかけて2009年3月に『大阪の部落史』史料編9巻・本文編1巻が完成しています。しかし、その優れた研究成果が、残念ながら多くの市民に十分知られているとはいえない状況があります。また、編纂過程で発掘された貴重な史料およびそれまでに部落解放運動関係団体や研究機関が収集してきた膨大な史資料が各所に保管され、研究者のみならず市民の閲覧利用には生かされていないという状況もあります。そこで、本連続学習会では、昨年に引き続き大阪という地域の部落史を具体的に掘り下げながら、大阪的な独自性とかつ全国的な共通性を明らかにしていきたいと思います。学校教育における部落史学習指導の一層の推進や社会啓発における部落史の理解の深化に役立てていただくことを期待しています。あわせて部落問題資料室（仮称）設置の意義をご理解いただければありがたく存じます。

日時：2026年2月21日(土) 13:30～17:00

（参加方法・参加費・会場については裏面をご覧ください。）

報告者：友永健三さん（部落解放・人権研究所名誉理事）

テーマ：「戦後部落解放運動高揚期の成果と問題点」

<報告概要>戦後部落解放運動の高揚期(1965～1990年)の35年間は、部落が大きく変化し、部落解放運動が急速に拡大した時期であった。特に「同対審」答申が出され、一連の「特別措置法」が制定され、「同和問題」の解決の責務は国(自治体含む)にあるとされ、これらを武器とした果敢な行政闘争が展開されたことが大きな役割を果たした。

一連の「特別措置法」に基づく取り組みで残された課題(差別事件への取り組みなど)を直視し、「同対審」答申の基本精神や人種差別撤廃条約に代表される国際的な差別撤廃の潮流に学ぶ中から、「部落解放基本法」の制定を求めた国民運動が開始された。また、この時期には、狭山差別裁判、「部落地名総鑑」差別事件、第3回世界宗教者平和会議での差別事件などに対する糾弾闘争が展開され、部落解放中央共闘会議、同和問題に取り組む企業連絡会、『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議など、部落問題の解決を「国民的課題」としていくための組織が次々と結成された。さらに、この時期は、国際人権規約の批准運動に代表される国連の人権活動との連携、世界の反差別運動との連帯が積み上げられ、反差別国際運動(IMADR)が結成されるに至った。

一方、同和事業の急速な増大、同盟員の急速な拡大に対して、「解放が目的、事業は手段」といった運動の原則が守られず、さまざまな問題(ボス支配、幹部が私腹を肥やす、行政依存主義など)が部分的に生じてきた。

松本治一郎の参議院選挙、「同対審」答申の評価などをめぐって部落解放同盟と日本共産党・日本共産党系の人びととの対立は存在していたが、矢田教育差別事件を契機に部落解放同盟内の日本共産党系の人びとが除名され、部落解放同盟正常化全国連絡会議・全国部落解放運動連合会(全解連)が結成された。その後、日本共産党・全解連は窓口一本化反対、同和取りすぎ論を主張し、国民融合論を主張するに至った。

タカ派の中曽根内閣が誕生し、総評・国労への攻撃に続いて部落解放同盟への攻撃がかけられた。その象徴が「地対協」基本問題検討部会報告と「啓発推進指針」であり、糾弾否定、同和行政打ち切りが主張された。

部落解放同盟は、日本共産党・全解連の攻撃、自民党タカ派による攻撃をハネ返し、これまでの運動の反省と、情勢の変化を踏まえ、第三期の解放運動を提唱するに至った。

<略歴と主な著作> 1969年 大阪市立大学文学部哲学科卒業、部落解放同盟大阪府連合会教育宣伝局に勤務するとともに大阪部落解放研究所(現在の一般社団法人部落解放・人権研究所)事務局員を兼務、その後、同研究所の事務局長、理事・所長を歴任し、2009年3月退任。大阪市立大学(1972～2012年度)、関西学院大学(1976～2016年度)非常勤講師として部落問題、人権問題を担当。現在、一般社団法人部落解放・人権研究所名誉理事、世界人権宣言大阪連絡会議顧問、反差別国際運動(IMADR)顧問、公益財団法人反差別・人権研究所みえ顧問、公益財団法人住吉隣保事業推進協会理事長などを務める。

著書に、ヒューマンライツベーシック『いま、改めて「部落地名総鑑」差別事件を問う』2006年、『部落解放を考える差別の現在と解放への探求』2015年など、共著に『ビジュアルブック 部落解放運動の歩み100項』2012年、朝治武・谷元昭信・寺木伸明・友永健三編著『部落解放論の最前線—多角的な視点からの展開—』2018年、同編著『続・部落解放論の最前線—水平社一〇〇年をふまえた新たな展開—』2021年などがある。(いずれも解放出版社刊)

●参加方法：会場参加、オンライン（Zoom）参加のどちらの場合も、下記のメールまたは・電話に事前連絡をお願いします。

○会場参加……1,500円(資料代・会場費込み)。当日会場でお支払いください。

＊事前申し込み（30人限定）を優先しますが、当日に空きがあれば参加は可能です。

○オンライン（Zoom）参加……1,000円(資料代込み)。参加費は事前に銀行振り込みをお願いします。

＊入金確認後、メールにてURLや資料をお送り致します。

＊参加申し込みをされた方で、欠席された場合、ご希望があれば、後日、質疑応答を除く講演部分の録画映像をお送りします。

メール：burakushiryokukenkyu@gmail.com

振込先：りそな銀行 島本支店（店番243） 普通 0155115

部落問題資料研究会（ブラクモンダイシリョウケンキュウカイ）

●会場：デクラレーションビル 3階研修室

（大阪市浪速区浪速東3-9-19）

●主催：部落問題資料研究会（代表・寺木伸明）

後援：大阪市人権・同和教育研究会

浪速地区歴史展示室

部落解放同盟大阪府連合会

大阪人権博物館

全国大学同和教育研究協議会

全国部落史研究会

●申し込み先・お問合せ先：部落問題資料研究会

（大阪市浪速区芦原ステーションビル）

メール：burakushiryokukenkyu@gmail.com

電話：090-4292-4034（増井）



部落問題資料研究会：各所に散在する貴重な史料、資料、文献等を一堂に集めた「部落問題資料室」（仮称）を開設することを目的として、2021年7月15日に結成されました。次のような事業を行っています。

1. 部落問題学習の内容・方法の研究ならびに実践の交流、2. 研究会の開催、3. 部落問題に関する資料を集中保管し、閲覧利用に供する施設を設置するための調査・研究、4. 関係機関・団体との連絡調整など。

私たちは、大阪人権博物館や部落解放・人権研究所など「目的意識を共有する人たち」と広く協議の場を設け、連携しながら実現していきます。皆様にも、仲間としてぜひ会員に加わってくださり、ともに取り組んでくださることを切望しています。